





## 【共通問題】

第一問 次の1～4の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 墨のノウタンで絵に立体感を出す。

- a タンジエンな作業をする。
- b 彼女はレイタンな視線を向けた。
- c 彼の文章はホウタンにして小心だ。
- d 準備バンタン整った。
- e タンカだけが人を運ぶ。

(2) プロジェクトの成功に全力をケイチユウする。

- a チユウボウで従業員の食事を作る。
- b 椿の種子から油をチユウシユツする。
- c テンチユウとは、漢字の六書の一つである。
- d 国家のチユウセキとして重きをなす。
- e お寺の釣鐘をカイチユウする。

(3) 親からバクダイな遺産を引き継いだ。

- a ラクバクとした孤独を味わう。
- b バクガヤホップはビールの原料になる。
- c 地球のサバク化の進行を止める。
- d 相手の主張にハンバクを加える。
- e バクマツから明治維新までの歴史の動きを学ぶ。

(4) 登場人物のソウカンを図で示す。

- a 新たに原案をキソウする。
- b シンソウを明らかにする。
- c 夏休み前に校内のソウジを行う。
- d ソウダイな計画に感動する。
- e 半導体の不足でソウキョウ時間を短縮した。

2 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 熟語の読みとして誤っているものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 市井しきい      b 蹉跌きでつ      c 艱難かんなん      d 完遂かんつい      e 更迭きうてつ

(2) 「置」という字を構成する部首「罝」の名称として適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。  カ

- a あみがしら  
b のごめへん  
c なめしがわ  
d きによう  
e かなえ

3 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 四字熟語とその意味として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- a 旗幟鮮明 ↓ 自分の主義・主張がはっきりしていること。  
b 君子豹変 ↓ 君子は誤りと知つたらすぐに改め、善に移るということ。  
c 月下氷人 ↓ 結婚の仲人のこと。  
d 阿鼻叫喚 ↓ 悲惨な状態の中で、救いを求めて泣き叫ぶこと。  
e 豪放磊落 ↓ 大胆すぎるふるまいは、自分の地位を落とすということ。

(2) 慣用句の使い方として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a この魚は足が早いので、今晚中に食べなければならない。  
b 若いうちは他人の飯を食つて、いろいろな経験を積んだ方がよい。  
c 頼まれた仕事があまりに多すぎて、とても言が回らない。  
d 掛け合い漫才を見て、顎が外れるほど笑つた。  
e 彼の罵詈雑言には、思わず耳をふさぎたくなる。

4 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の各文の傍線部「た」について、存続の用法で使われている助動詞「た」を、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 昨夜、感動的なドラマを見た。
- b 去年はとても寒くて、雪もたくさん積もった。
- c このノートはあなたのものでしたね。
- d たった今、頼まれていた仕事が終わったところです。
- e 先のとがった鉛筆をたくさん用意した。

(2) 次の各文の傍線部「て」について、補助の関係を示す接続助詞であるものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 疲れすぎて動けない。
- b 外は風が吹いている。
- c 苦くて食べられない。
- d 秋が過ぎて、冬になった。
- e 酸っぱくて辛いラーメン。

二七の四

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(植村恒一郎『時間の本性』による)

1 傍線部①「不寛容になりがち」の「不寛容」の文章中における意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 排他
- b 固辞
- c 承服
- d 慎重
- e 横柄

2 傍線部②「既知のものを未知の概念で説明するという分りにくさが伴う」とは、どう  
いうことか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 多くの人々が普遍的な定義が存在すると思っ込んでいる事柄に対して、この重大な  
思い込みを覆すには常識はずれの奇抜な発想で語らざるを得ないということ。
- b 表面的には誰もが知っている事柄であるからこそ、わざわざ難解な術語に置き換え  
て哲学的な新たな解釈を示しても誰からも支持されることはないということ。
- c 哲学者がその存在について十分に把握している事柄でも、他の人々と同じように無  
知を演じて分析しなければならず説明に混乱が生ずる可能性があるということ。
- d 誰もが理解していると思われる自明な事柄ほど、哲学的分析では一般的な捉え方を  
超えた別の概念による説明をしなければならないため難解さが付随するということ。
- e 一般的に上辺だけの理解にとどまりやすい事柄は、多くの人の賛同を得られないと  
してもこれまでにない斬新な分析で大胆に論じていくことになるということ。

3 文章中の  ・  に当てはまる言葉の組み合わせとして、最も適切な  
ものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a ③ 制約      ⑥ 修正
- b ③ 支配      ⑥ 調整
- c ③ 抑圧      ⑥ 変更
- d ③ 翻弄      ⑥ 監視
- e ③ 圧迫      ⑥ 点検

4 文章中の  に当てはまる言葉として最も適切なものを、次のa～eの中から  
一つ選びなさい。

- a つまり
- b しかも
- c そもそも
- d したがって
- e しかしながら



5 傍線部⑤「このような二面性」とあるが、その内容の説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。  オ

- a 適切な「名前」と正確な「概念」をもつことによつて対象との自在な関わりをもてる一方で、常にその「名前」が適切かどうかを確かめ続ける責任が生じる。
- b 適切な「名前」と正確な「概念」をもつことによつて対象との対等な関わりをもてる一方で、未知の「概念」を既知として論じることには困難を感じる。
- c 適切な「名前」と正確な「概念」をもつことによつて対象を自分のものにできる一方で、「名前」や「概念」をもつと多面的なものの見方ができなくなる。
- d 適切な「名前」と正確な「概念」をもつことによつて対象について表面上は理解することが可能である一方で、その理解は哲学的な分析の本質とは逆行している。
- e 適切な「名前」と正確な「概念」をもつことによつて対象を自由に言い換えて表現できる一方で、自由に表現できることへの慢心が哲学的な分析の誤りを生んでいる。

6 傍線部⑦「哲学はこれまで存在することをやめなかった」における哲学の役割についての説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。  カ

- a 治療的分析によつて荒唐無稽な概念への接近を許容し、事実の裏に隠されている対象の本質を我々に見極めさせる。
- b 治療的分析によつて我々がいかに無知であるかを意識させ、事実を歪めて解釈してしまうことへの警鐘を鳴らす。
- c 概念を分析することで事実の追認に加えて、我々を束縛する困難な問題を解消し自由へと導こうとしてくれる。
- d 概念を分析することで我々が事実誤認していることを能動的に知覚させ、正しい解釈の追究への意欲を喚起させる。
- e 概念を分析することで我々が惑わされている言説の幻想を自覚させ、偽りのない自由な観念世界を構築してくれる。

7 文章中の  に当てはまる言葉として最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

- a 存在する現在の時間そのものである
- b 存在する現在の時間とは区別されるものである
- c 存在する現在の時間へと戻っていくものである
- d 存在する現在の時間に「一度はなる」のである
- e 存在する現在の時間に「一度もならない」のである

8 傍線部⑨「時間様相がパドックスを起す」とあるが、その内容の説明として最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

- a 我々は「過去」「現在」「未来」が存在することを暗黙の了解としているが、一方で「時間」の順序性や方向性の分析から目を背けているので、存在すべき「時間」は全く存在しない可能性もあるということ。
- b 我々は様々な諸概念との結び付きによって「過去」「現在」「未来」の存在を想起することはできるが、一方でそれらの「時間」を具体的な場面に置き換えて分類するのは理論上、不可能であるということ。
- c 我々が「過去」「未来」の時間様相を追究することで「現在」の実体をつかむことが期待されるが、一方で「現在」を捉えることは「過去」「未来」の存在そのものの否定にもつながってしまうということ。
- d 我々が「真」だと思いつく「時間」の存在は実のところ「偽」であることは明らかだが、一方で「時間」を「偽」と捉え直すことは「過去」「現在」「未来」という概念の崩壊を招くおそれがあるということ。
- e 我々がよく知る「時間」は「過去」「未来」に限らず「現在」でさえも存在しない可能性がある一方で、それらの時間様相は「動く」ため、存在しない「時間」も存在すると言える場合があるということ。

9 傍線部⑩「快刀乱麻を断つ」の意味として最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

- a 解決の糸口が見えない事態を手際よく処理すること。
- b 小さな事を解決するのに大げさな手段を用いること。
- c 前置きを抜きにしていきなり要点に入ること。
- d 物事をためらわずにきっぱり決断すること。
- e 一度使ってしまうと二度と使えなくなってしまうこと。

10 本文の論の展開や表現上の工夫についての説明として最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。  コ

- a 時間の哲学的分析について主要な西洋哲学を引き合いに出すことによつて、古今東西で時間が表層だけでしか扱われてこなかった哲学上の問題を提起している。
- b 時間を「名前」と「概念」の二つに分けて説明することで、具体と抽象を往還しながら時間の存在に迫ることを試み、哲学による概念分析の意義を主張している。
- c 哲学的時間論について、三つの時間様相の存在の不確かさをイギリスの哲学者が導いた結論も踏まえて捉え直した上で、筆者の考える解明の糸口を示している。
- d 時間様相と結び付く複雑な諸概念を日常生活の出来事と関連付けて具体的な事例を示し、いかに時間の存在と出来事が密接な関係なのかを明らかにしている。
- e 「アウグスティヌスの時間」「非実在性」「パラドックス」などの哲学特有の術語を多用して、時間の概念分析は他の学問領域と無縁であることを強調している。

11 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。  サ

- a 哲学的分析による時間理解には、量的な時間だけでなく、奇妙な性質をもつ時間様相についてこそ言及すべきで、互いに密着し合う「過去」「現在」「未来」をそれぞれ独立の概念として再分析することが重要である。
- b 時間の本性を捉えるには、まずは「自然の時間」と「精神の時間」の関係を捉える必要があるため、双方で複雑にもつれ合う諸概念についても哲学の対象として丁寧に分析していかなければならない。
- c 我々が時間の基本概念を定義するには、「運動」「変化」「生成・消滅」「出来事」など、複雑に絡み合う諸概念が時間様相に対してどのように関与するかに着目し、時間が生起する過程も含めた反証が必要である。
- d 我々は時間が当たり前存在しているという先入観に囚われてしまっている以上、非実在性としての時間の正体を解明することは困難で、哲学は時間様相を「現在」に絞つて本性を突き詰めるのが望ましい。
- e これまで相反する時間の流れの中に別々に存在すると思われてきた二つの時間の概念は、諸概念と密接に結合しているという共通項があり、その結合のあり方を入念に分析することで時間の理解が可能になる。

第3問 次の文章は『平中物語』の中の一節である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(『平中物語』による)

津の国＝摂津の国。現在の大阪府と兵庫県の一部。

葦火焼く屋＝摂津の国の難波は葦の名所で、人々は葦を焚いて燃料にした。また、「葦火焼く屋」は、『万葉集』の中の作者未詳の「難波人葦火焼く屋の煤してあれどおのが妻こそ常めづらしき」による。

1 傍線部①「あためける人」のこゝでの意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 男に仕えていた人。
- b 男を憎んでいる人。
- c 男から疎んじられている人。
- d 男を頼りにしている人。
- e 男と一緒に暮らしていた人。

2 傍線部②「心もやらむ」とは、具体的に誰がどのようなことをすることを指しているのか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 女が心から男を頼りにすること。
- b 男が世間から信頼を得ようとする事。
- c 女が失恋の痛手を癒そうとすること。
- d 男が気晴らしをしようとする事。
- e 世間の人が勝手なことを男に言うこと。

3 傍線部③「愛きことよいかで聞かじと祓へつつ違へながすの涙ぞいざかし」に用いられている修辞法と、「違へながす」のここでの意味として最も適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 修辞法

- a 掛詞
- b 縁語
- c 序詞
- d 本歌取り
- e 枕詞

(2) 「違へながす」

- a お祓いをして凶を吉にかえること。
- b 悪い噂を良い噂にかえて世間に流すこと。
- c 災いを避けるために目的の方角をかえて進むこと。
- d 願いごとを人形に書いて洗い流すこと。
- e つらいことを人形に移しかえて水に流すこと。

4 傍線部④「涙ぞ袖の潮と満ちける」とあるが、その理由として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 人の噂にあつて都落ちをしたけれども、のどかな風景を目の前にすると、都にいた折の口惜しさが込み上げてきたから。
- b 都から離れた摂津まで来たけれども、都での良い出来事ばかりが思い出され、懐かしさが込み上げてきたから。
- c 遠く離れた都が恋しくなり、恋人のことも思い出されて、その距離の遠さが今更ながらしみじみと切なく感じられるから。
- d 人の噂を逃れて摂津まで来てみたものの、慣れない土地では心細さが募るばかりで、頼るべき人もいなかったから。
- e 自分がつれないことをした女も、こうして都を離れてみると、その良さが改めて実感でき離れがたく思ったから。

5 傍線部⑤「さなむありし」の内容として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 一緒に長洲に来られなかった理由を弁解したもの。
- b 都に置いてきた女への思慕の情を訴えたもの。
- c 津の国に来ざるを得なかった本当の理由を明かしたもの。
- d 都であった噂の内容に反論したもの。
- e 昨日の夕方に詠んだ歌の中身と状況を説明したもの。

6 傍線部⑥「まかりまうしせし人」の文法的説明と、この人物の説明として最も適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 文法的説明

- a ラ行四段活用動詞の連用形 + 謙讓の補助動詞の連用形 + サ行変格活用動詞の未然形 + 強調の副助詞 + 名詞
- b ラ行四段活用動詞の連用形 + 謙讓の補助動詞の連用形 + 使役の助動詞「す」 + 過去の助動詞「き」の連体形 + 名詞
- c ラ行四段活用動詞の連用形 + サ行変格活用動詞の未然形 + 順接の接續助詞 + 名詞
- d 名詞 + サ行変格活用動詞の未然形 + 過去の助動詞「き」の連体形 + 名詞
- e 名詞 + サ行変格活用動詞の未然形 + 強調の副助詞 + 名詞

(2) 「まかりまうしせし人」

- a 別れの歌を交わしてきた女
- b 男に関する噂をした人
- c 津の国に行ってしまった男
- d つまらぬ作りごとを言った人
- e 長洲で網を引かせていた人

7 本文の内容に当てはまるものとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 男は、当初、都で深く契り合っていた女と二人で摂津の国に行こうとしたが、女が摂津には行けない理由を詠んだ和歌を男に贈ってきたため、仕方なく一人で下向することになった。
- b 男は、都での生活に嫌気がさし京を離れ、摂津の国にいる女と懇ろになったのだが、都に残してきた元の女の良さを思い出さずにつれ、都が懐かしく、結局そのために京へ戻ることにした。
- c 男は、世間には内緒で契り合った女がいたが、世間の噂に耐えかねて京を離れる際に、摂津の国に行こうとする理由と自分の気持ちを、和歌に詠んで女への返歌とした。
- d 男は、京を離れて摂津の国に出向いたけれども、元の女を忘れられずに手紙を送ったところ、女から男の薄情な様子を嘆く詰問の和歌を贈ってきたので、京へ戻ることにした。
- e 男は、ありもしない作りごとを言いふらされて、世間からとかく噂をされたことに嫌気がさし、契り合った女とともに摂津の国まで出向いたが、田舎のわびしさが身に染みて京へ戻ることにした。

第4問 次の漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、送り仮名・  
返り点を省いた箇所がある。

(『十八史略』巻五による)

倭臣ニおもねりへつらウ臣。

依ニたよる。

1 傍線部①「有上書請去倭臣者」の書き下し文として最も適切なものを、次のa～eの  
中から一つ選びなさい。

- a 上有りて書くは倭臣を請去する者なり
- b 有上書き請ひて倭臣を去らんとす
- c 上書有りて倭臣を請ふ去らん
- d 上書きて倭臣を請去する者有らんか
- e 上書して倭臣を去らんと請ふ者有り

2 傍線部②「願陽怒以試之」の「陽」はどのような意味で用いられているか。最も適切  
なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 刃りをくまなく照らす。
- b 自分の気持ちを正直に言う。
- c うわべだけそう見せかける。
- d 書の内容を詳らかにする。
- e 曲がったことは行わない。



3 傍線部③「順」、④「方」の読みとして最も適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

③「順」

- a いさかふ
- b いふ
- c そふ
- d したがふ
- e へつらふ

④「方」

- a まさに
- b いまから
- c かならず
- d つよく
- e これより

4 文章中の  および  に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- |   |        |        |
|---|--------|--------|
| a | A :: 課 | B :: 低 |
| b | A :: 薄 | B :: 餘 |
| c | A :: 定 | B :: 飽 |
| d | A :: 窮 | B :: 充 |
| e | A :: 無 | B :: 少 |

5 傍線部⑤「商旅野宿焉」と述べられている理由として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 日中、盗賊を取り締まったことのでかえって夜間は物騒になり、普通の宿にも安心して泊まれないようになったから。
- b 良い政治を行った結果、民の生活が潤うようになったため、野宿せずとも安心して旅を行うことができるようになったから。
- c 法を厳しくして非遵行爲を取り締まったので、生活にゆとりがなくなった人たちは流浪して野宿するしかなくなったから。
- d 厳しい政治はかえって民を怯えさせ、自由に行き来をしなくなった結果、人通りが絶えてしまったから。
- e 民の生活にゆとりができ盗賊がいなくなったので、行き交う人たちも安心して野宿することができるようになったから。

6 傍線部⑥「刻民以奉君」の意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 人民に残酷な仕打ちをして、役人が肥え太ること。
- b 人民から残酷に税を取り立て、皇帝の費用に充てること。
- c 人民に軍役を課し、軍人として戦争に赴かせること。
- d 人民から人夫を徴発し、国家の建造物を造ること。
- e 人民を厳しく取り締まり、国に忠誠を誓わせること。

7 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

- a 皇帝は、臣下の言を聞きいれず自分の理想とするところを群臣に言い聞かせたが、その理想にこだわるあまり、実現性はほとんどなかった。
- b 皇帝は、実直な人柄で他者を試すようなことをしなかつたがゆえに、宮廷にはおもねりへつらう臣下がはびこることになった。
- c 皇帝は、至誠をもって天下を治めるには自らの奢りをやめその費用を省くことだと説いたが、豪華な暮らしを改めることはなかった。
- d 皇帝は、国民によつて国は成り立っているのだから、潔白な役人を選び用いて国民の生活に余裕をもたらすことが大事だと群臣に説いた。
- e 皇帝は、人民の暮らしを重んじ税を軽くして民に報いたので、国はますます富み栄え結果として皇帝の名声も上がることになった。

特別支援学校の受審者は二七の二五へ進んでください。

## 【選択問題 中学校・高等学校】

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 故事成語とその説明として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ア

- a 驥尾に付す → 青蠅は少ししか飛べないが、驥のような足の速い馬のしっぽにつけば千里もの遠い所に行くことができることから、有能な先輩のおかげで後輩が立派に事を成し遂げること。
- b 胡蝶の夢 → 荘子が蝶になった夢から目覚め、自分が夢の中で蝶となったのか、目覚めていると思っている今が夢で、蝶が本来の自分なのかわからなくなったという故事から、夢と現実が区別できない境地。または、人生が儚いことのたとえ。
- c 知音 → 鍾子期は、琴の名人伯牙の弾く琴の音色によって、その心境までよく理解したという故事から、互いに心を理解し合っている親友のこと。
- d 牛耳を執る → 春秋時代、魯国の実力者であった公明儀が、牛に向かって琴を演奏したが、牛は草を食うばかりであったという故事から、愚者に道理を説いても無駄であることのたとえ。
- e 髀肉の嘆 → 蜀の劉備が、長い間戦場を馬で駆けめぐっていないので股に肉がついたのを嘆いたという故事から、功名を立てたり、手腕を発揮する機会がなく、無駄に時を過ごすのを嘆くこと。

2 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の説明に該当する作品として適切なものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

イ

撰者は、源通具、藤原定家をはじめとする六人で、鎌倉時代前期に一応の完成を見た。勅撰和歌集で、撰進の下命者は後鳥羽院であり、上皇自ら撰歌の部類や配列などに大きく関与した。象徴的・絵画的歌風を特徴とする。

- a 小倉百人一首      b 金塊和歌集      c 新古今和歌集      d 万葉集  
e 古今和歌集

- (2) 次の説明に該当する詩人として適切なものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

陸軍士官学校・三高を経て、東大仏文科に進む。東大では小林秀雄らと同期で、ツルゲーネフや萩原朔太郎に心酔した。昭和五（一九三〇）年に刊行した第一詩集『測量船』で詩人的地位を確立、昭和十四（一九三九）年には詩集『卅千里』を刊行した。近代の孤獨をうたった詩人であり、知性と感情との調和の上に立つその叙情詩は、近代詩史の上に高い到達を示した。

- a 草野心平    b 中原中也    c 金子光晴    d 立原道造    e 三好達治

- (3) 物語文学作品に関する説明として誤っているものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a 『晁中納言物語』は、平安時代後期以降に成立した。作者は未詳である。十編の短編と一つの断章から成る物語集。蝶よりも毛虫を愛する「虫めづる姫君」を始めとして、巧みな構成の中に皮肉なおかしみを描いている点に眼目がある。
- b 『うつほ物語』は、平安時代中期に成立した。作者は未詳である。百七十三段の物語で、前半は後撰集時代の歌人の歌語り、後半は民間伝承に取材した説話的物語から成り、当時の貴族社会に生きた人々の日常の一端を知る資料として貴重な作品である。
- c 『竹取物語』は、平安時代前期に成立した。作者は未詳である。漢文訓読調の素朴で簡潔な和文体と、係り結びや助動詞「けり」で結ぶ文を用いた、物語するという要素をもった文体とが共存している。現存最古の作り物語で、後に続く物語文学への影響は非常に大きい。
- d 『とりかへばや物語』は平安時代後期以降に成立した。作者は未詳である。兄妹が男女逆の姿で育てられるが、やがて元の姿に戻って幸福に結婚し、一族が繁栄する。奇抜な構想で、退廃的傾向の見られる物語である。
- e 『伊勢物語』は、平安時代前期に成立した。作者は未詳である。歌物語で、伝本によって多少の差はあるものの、約百二十五段の散文と和歌から成り、散文は歌と相まって叙情性に富んでいる。のちの『源氏物語』の構想にも影響を与えた。

(4) 近現代の文学に関する説明として誤っているものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 大正時代末期から昭和時代初期にかけて、文学を階級闘争の手段として用いようとするプロレタリア文学が生まれた。その基本的姿勢は、芸術を革命運動の役に立て、あるいは革命運動そのものを芸術とするものであった。代表的な作品には、葉山嘉樹の『セメント樽の中の手紙』や、小林多喜二の『蟹工船』などがある。
- b 大正時代末期から昭和時代初期にかけて、プロレタリア文学に対抗し、政治抜きの文学そのものに取り組もうとしたのが芸術派で、中でもめざましい活動を示したのが、横光利一、川端康成の新感覚派である。代表的な作品には、横光利一の『日輪』や『颯』、川端康成の『伊豆の踊子』などがある。
- c 大正時代末期から昭和時代初期にかけて、新感覚派の流れを受け、新潮社系の作家たちを中心に結成されたのが新興芸術派である。井伏鱒二は、はにかみの中にユーモアと哀しみのにじむ作風が特徴で『山椒魚』を発表し、梶井基次郎は、繊細な感性を短編の中に凝縮した『城の崎にて』を発表した。
- d 昭和五年頃から、精神の内面を明確に描出することで一層現実を肉薄しようとする心理的リアリズムを主張した新心理主義の文学が、芸術派の一傾向から大きな流れとなっていた。アイルランドのジョイスやフランスのプルーストらの心理小説の影響を強く受けた堀辰雄は、ある作家の死を中心に遺族と弟子の心理模様を描いた『聖家族』や『風立ちぬ』などを発表した。
- e 昭和十年前後、「文芸復興」と呼ばれる動きがあった。プロレタリア文学や芸術派が勢いを得ていたころには、既成作家はその陰で目立たなかったが、それらが衰退すると、既成作家の復活という様相を呈した。永井荷風は『濠東綺譚』、谷崎潤一郎は『春琴抄』を発表し、島崎藤村は『夜明け前』を完成させた。

## 【選択問題 中学校】

第6問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)と(2)は、平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領国語における「第2 各学年の目標及び内容」の第3学年の「2 内容（思考力、判断力、表現力等）B 書くこと」及び「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に示されている事柄である。  
□ア□・□イ□に該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、□ア□、伝えたいことを明確にすること。

- a 多様な方法で集めた材料を整理し
- b 多様な考えを想定しながら材料を整理し
- c 集めた材料を分類したり関係付けたりして
- d 集めた材料の客観性や信頼性を確認し
- e 相手を説得できるように論理の展開などを考えて

(2) □イ□、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。

- a 単元など内容や時間のまとまりを見通して
- b 多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立て
- c 国語を尊重する態度を養いながら
- d 生徒の発達や学習の状況に応じて単元を構想し
- e 学習指導の創意工夫を図り

2 次の(1)～(3)は、『中学校学習指導要領解説 国語編』(平成二十九年七月)に示されている「内容」に関する問題である。それぞれの問いに答えなさい。

- (1) 次の文章は、第3学年の内容 2〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むことの「考えの形成、共有」に関する解説の一部である。文章中の **ウ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことや評価したことなどを結び付けて自分の考えを明確にもち、文章に表れているものの見方や考え方と比べたり、他者の考えと比べたりすることによって、自分の考えを広げたり深めたりすることが求められる。義務教育修了段階として、**ウ** ことが重要である。

- a 社会生活の中の様々な事象について、より広い視野をもって自分の意見を形成することができるようにする
- b 社会生活の中の出来事や事象に関心を持ち、自分とは異なる立場や考えをもつ他者の存在を意識する
- c 社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化を理解する
- d 社会生活における様々な経験と結びつけて自分の考えをまとめる際に、共通点や相違点を踏まえる
- e 社会生活における言語活動に必要な国語の能力を養い、客観的な視点から自己評価できるようにする

- (2) 次の文章は、第2学年の内容 1〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項「文や文章」に関する解説の一部である。文章中の **工** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

文の成分の順序とは、文を組み立てている主語、述語、修飾語、接続語、独立語などの並ぶ順序、つまり語順のことをいう。照応には、主語と述語との照応や修飾語と被修飾語との照応などがある。つまり、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとは、語順や語の照応によって **工** ことであり、これを通して文の成分の順序や照応などの文の構成について着目させることが重要である。

- a 文章がどのように異なってくるのかについて、文脈に沿って考え、検討する
- b 表現がどのように変わってくるかを、様々な文型について考え、理解する
- c 論理の展開がどのように異なるのかについて、様々な文型に照らして考え、検討する
- d 物語の展開がどのように変わってくるのかについて、文脈に沿って考え、理解する
- e 文の構造がどのように変わってくるのかについて、様々な文型で考え、理解する

- (3) 次の文章は、第1学年の内容 2「思考力、判断力、表現力等」A「話すこと・聞くこと」の「表現、共有」に関する解説の一部である。文章中の「オ」に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

相手の反応を踏まえるとは、うなずきや表情などの聞き手の反応から、「オ」ことである。小学校第3学年及び第4学年における「知識及び技能」の(1)「イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。」の学習を踏まえ、中学校では相手の反応に注意することを求めている。

- a 必要に応じて記録したり質問したりする
- b 話し手としての自分の役割を見直す
- c 知識や経験と結びつけて話を整える
- d 自分の考えやその根拠が明確になるように話を構成する
- e 話の受け止め方や理解の状況を捉える



## 【選択問題 高等学校】

第6問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(3)は、平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領国語における「第2款 各科目」に示されている事柄である。ア、ウに該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、(1)は「現代の国語」の「3 内容の取扱い」、(2)は「論理国語」の「1 目標」、(3)は「国語表現」の「1 目標」に示されている事柄である。

(1) 「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、ア 単位時間程度を  
 相当するものとし、計画的に指導すること。

- a 10 ～ 20
- b 20 ～ 30
- c 30 ～ 40
- d 10 ～ 30
- e 20 ～ 40

(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、イ、他者との関わりの中で  
 伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにす  
 る。

- a 言語文化の担い手としての自覚を深め
- b 言葉による見方・考え方を働かせ
- c 創造的に考える力を養い
- d 効果的に表現する力を育み
- e 思考力や想像力を鍛え

(3) ウに必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

- a 実社会
- b 学校生活
- c 生涯にわたる社会生活
- d 身近な社会生活
- e 社会人

2 次の(1)と(2)は、『高等学校学習指導要領解説 国語編』(平成三十年七月)における「第一章 総説」の「第4節 国語科の内容」に関する問題である。それぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の文は、「2 「知識及び技能」の内容 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の「表現の技法」に関する解説の一部である。文中の「エ」に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

「現代の国語」では、比喩、例示、言い換えなどの修辭や、「エ」こと、「言語文化」では、本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること、「文学国語」では、文学的な文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと、「国語表現」では、省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うこと、「古典探究」では、古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めることを示している。

- a 相手や状況に合わせた述べ方を理解し使い分ける
- b 実用的な文章などの種類や特徴について理解を深め使う
- c 文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する
- d 事実と意見との関係や描写の仕方などについての理解を深める
- e 直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う

(2) 次の文は、「3 「思考力、判断力、表現力等」の内容」の「C 読むこと」の「精査・解釈」に関する解説の一部である。文中の「オ」に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

「言語文化」のエでは、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること、「論理国語」のオでは、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること、「文学国語」のオでは、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること、「古典探究」のエでは、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、「オ」ことを示している。

- a その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する
- b 作者の考え方や作品の価値などについて評価する
- c 作者のものの見方や考え方について自分の考えをまとめる
- d それらに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える
- e 作品の解釈を深め、多面的・多角的な視点から理解を深める

## 【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～4の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、令和3年6月に文部科学省より示された「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」の「第1編 障害のある子供の教育支援の基本的な考え方」の一部である。文中の  ～  に該当する語句を、それぞれ下の a～d から一つ選びなさい。

合理的配慮は、「障害者の権利に関する条約」第2条の定義において提唱された概念であり、その定義に照らし、我が国の学校教育においては、中央教育審議会初等中等教育分科会報告において、合理的配慮とは、「障害のある子どもが、他の子どもと  に『教育を受ける権利』を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に  に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の  を課さないもの」と定義されている。なお、障害者の権利に関する条約において、合理的配慮の否定は、障害を理由とする  に含まれるとされていることに留意する必要がある。

- |                                |        |       |       |      |
|--------------------------------|--------|-------|-------|------|
| <input type="text" value="ア"/> | a 平等   | b 均等  | c 対等  | d 同等 |
| <input type="text" value="イ"/> | a 習熟度別 | b 学年別 | c 課題別 | d 個別 |
| <input type="text" value="ウ"/> | a 対応   | b 負担  | c 義務  | d 責任 |
| <input type="text" value="エ"/> | a 差別   | b 区別  | c 分離  | d 偏見 |

- 2 次の表は、令和3年10月に文部科学省より示された「特別支援教育資料（令和2年度）」の「第1部 データ編」の表の一部である。表中の  ・  に該当する語句を、それぞれ下のa～dから一つ選びなさい。

出典：「学校基本調査」（文部科学省）  
※中等教育学校の特別支援学級はなし。

- a 病弱・身体虚弱    b 自閉症・情緒障害    c 知的障害    d 言語障害

- 3 文部科学省の「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の公布について（通知）（平成28年12月9日）」にある平成30年4月1日より施行された「通級による指導」に関する内容に該当するものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 知的障害者を対象とする通級による指導の制度化  
b 情緒障害者を対象とする通級による指導の制度化  
c 幼稚園における通級による指導の制度化  
d 高等学校における通級による指導の制度化

4 平成29年4月告示の「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動」に記載されている自立活動の内容について、次の(1)～(6)の区分に該当する項目を、それぞれ下のa～cから一つ選びなさい。

- |             |                                |               |                                |
|-------------|--------------------------------|---------------|--------------------------------|
| (1) 健康の保持   | <input type="text" value="ク"/> | (2) 心理的な安定    | <input type="text" value="ケ"/> |
| (3) 人間関係の形成 | <input type="text" value="コ"/> | (4) 環境の把握     | <input type="text" value="サ"/> |
| (5) 身体の動き   | <input type="text" value="シ"/> | (6) コミュニケーション | <input type="text" value="ス"/> |

- a 身体各部の状態の理解と養護に関すること。  
 b 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。  
 c 日常生活に必要な基本動作に関すること。

- a 状況の理解と変化への対応に関すること。  
 b 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。  
 c 自己の理解と行動の調整に関すること。

- a 情緒の安定に関すること。  
 b 他者の意図や感情の理解に関すること。  
 c コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

- a 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。  
 b 身体の移動能力に関すること。  
 c 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。

- a 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。  
 b 保有する感覚の活用に関すること。  
 c 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

- a 集団への参加の基礎に関すること。  
 b 言語の形成と活用に関すること。  
 c 健康状態の維持・改善に関すること。









